22 古典を楽しむ 坊っちゃん

夏目漱石

ねらい ① わが国を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読もう。

ウォーミングアップ

読解の道しるべ

■『坊っちゃん』

「俺」は、**親譲りの無鉄砲で、子どもの時から損ばかりしている。**

父…「俺」をかわいがってはくれない。

母…兄ばかりひいきする。　兄…「俺」とは仲がよくない。

女中の清…「俺」を非常にかわいがる。

兄が、母の死を「俺」のせいにする。兄にけがをさせた「俺」は、父に勘当すると言われるが、清が泣きながら謝り、父の怒りが解ける。清は、さらに「俺」をかわいがるようになる。

父が卒中で亡くなる。財産は処分され、兄や清と別れて暮らすことになる。

俺…一人で下宿して物理学校に入学。

兄…会社の九州の支店へ。　清…おいの厄介になる。

「俺」は三年後に、物理学校を卒業。四国の中学校の数学の教師の職を即席に引き受ける。→**親譲りの無鉄砲**

四国への出立の日　清が来て、いろいろと「俺」の世話をやく。

いよいよ別れるという時　清の目には涙がいっぱいたまっている。

「俺」を見送る清が、なんだか大変小さく見えた。

■**夏目漱石**（一八六七――一九一六）

一八六七（慶応三）年、現在の東京都に生まれる。

愛媛県尋常中学校、熊本県の第五高等学校で教鞭をとる。

一九〇〇（明治三十三）年、英国に留学。

帰国後、『吾輩は猫である』で小説家としてデビュー。職業作家となる。

「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

① 親譲りの［　　］な性格の「俺」（＝坊っちゃん）は、親にはかわいがられなかったが、女中の［　　］だけはかわいがってくれた。

② 作者の［　　］は、『吾輩は猫である』でデビューした。

漢字・語句を確認しよう。

1 ――線の読み仮名を書きなさい。

□① 仕事を請け負う。（　　）

□② 質屋に入れる。（　　）

□③ 尻が重い。（　　）

□④ 孟宗竹を切る。（　　）

□⑤ 芝居をする。（　　）

□⑥ 懲役を科する。（　　）

□⑦ おとなしい性分。（　　）

□⑧ 駒を動かす。（　　）

□⑨ 弟を褒める。（　　）

□⑩ 古い壱円札。（　　）

□⑪ 川で溺れる。（　　）

□⑫ 住まいを周旋する。（　　）

□⑬ 外出を諦める。（　　）

□⑭ 慰めの言葉。（　　）

□⑮ 一概には言えない。（　　）
□⑰ 泣きながら謝る。（　　）
□⑲ 差し支えない。（　　）

2 ――線の片仮名を漢字で書きなさい。

□① ジョウダンを言う。（　　）
□③ キズアトが残る。（　　）
□⑤ オコった顔。（　　）
□⑦ 貴族がレイラクする。（　　）
□⑨ エンピツを削る。（　　）
□⑪ カシを食べる。（　　）
□⑬ ソクセキの料理。（　　）
□⑮ 手のコウをぶつける。（　　）
□⑰ 田畑をアらす。（　　）
□⑯ 淡泊な味の料理。（　　）
□⑱ 兄と相撲をとる。（　　）
□⑳ 代金を請求する。（　　）
□② ナイフのハを研ぐ。（　　）
□④ スベって転ぶ。（　　）
□⑥ ショウギ倒しになる。（　　）
□⑧ タビを履く。（　　）
□⑩ クサい匂いがする。（　　）
□⑫ 人員をボシュウする。（　　）
□⑭ 海外にフニンする。（　　）
□⑯ 海外旅行のミヤゲ。（　　）
□⑱ 空き缶を踏みツブす。（　　）
□⑲ 落としたペンをサガす。（　　）
□⑳ 作家のショウガイを描く。（　　）

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の――線部の語句の意味を答えなさい。

□① 無鉄砲な性格の兄は、問題ばかり起こしている。

□② 落雷で停電が起きたが、別段異常はなかった。

(2) 次の語句の使い方が正しいものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

□① しきりに

ア めったにないが、しきりに台風が来ることがある。
イ そういうことは、これまでしきりにない。
ウ 疲れていたせいか、一晩中しきりに眠った。
エ 窓の外では、しきりに雨が降っている。（　　）

□② むろん

ア 公共の場所で勝手に振る舞うなど、むろんだ。
イ 彼の言うことは少々むろんなところがあるので注意しろ。
ウ 子どもはむろんのこと、大人でも無理だ。
エ 友人との再会がうれしくて、むろんにはしゃぐ。（　　）

□③ もてあます

ア 泣きわめく迷子の子どもをもてあます。
イ 大量の貨物を倉庫の外にもてあます。
ウ 甘い言葉で他人の気持ちをもてあます。
エ 優勝決定戦が天候悪化で明日にもてあます。（　　）

練習問題1

教科書 P.148上段Q.1～P.150上段Q.8

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

[redacted]

(1) ——線①「親譲りの無鉄砲で、子どもの時から損ばかりしている」とありますが、「俺」の無鉄砲な性格がよくわかるエピソードを、二つ書きなさい。

□ □

(2) 「無鉄砲」がいかにも「親譲り」であることは「おやじ」のどんな言動からわかりますか。文中から**四十字以内**で書き抜きなさい。

□

(3) 「無鉄砲」なことをしたあとでも反省していない「俺」の「負けずぎらい」な性格が言動に表れている部分を、文中から**二十字**で書き抜きなさい。

□

(4) ——線②「はやした」、③「言った」、④「請け合った」とありますが、それぞれの会話部分はどこからどこまでですか。文中からそれぞれの**初めと終わりの四字**を書き抜きなさい。（句読点は含みません。）

□②

～

□(5) けんか相手としての「勘太郎」の特徴を表した**一文**を文中から探し、その**初めの五字**を書き抜きなさい。

□③ ～ □④

(6) □A～Cに入る言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ぐう　**イ** ぐいぐい　**ウ** くいくい　**エ** ぐらぐら

□A（　　）□B（　　）□C（　　）

□(7) この文章には、どんな特徴がありますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア やわらかな和語を多く用い、優雅な感じがする。

イ だじゃれが多く用いられ、ふざけた感じがする。

ウ 古い言葉もあり、漢文を読むような感じがする。

エ 簡潔で歯切れがよく、きびきびした感じがする。

（　　）

(8) 次の文章の□a～cに入る言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

夏目漱石は、一八六七年（慶応三年）に東京に生まれ、一九一六年（大正五年）に亡くなった作家・英文学者である。『高瀬舟』などの作者の□aと並び称される日本近代文学の代表的な作家で、人間の本質に鋭く迫る作品を数多く書いた。作品には、『坊っちゃん』の他に『□b』『□c』などがある。

ア 島崎藤村　**イ** 破戒　**ウ** 吾輩は猫である

エ 森鷗外　**オ** こころ　**カ** 山椒大夫

□a（　　）□b（　　）□c（　　）

定期テスト対策

教科書 P148〜163

実施時間のめやす ⇩ 20分

得点 ／100点

[redacted]

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

[redacted]

※4単簡に＝簡単に。
※5びん＝頭の左右の髪の毛。
※6小間物屋＝化粧品・身につける装飾品などのこまごました物を売る店。

□(1) ――線①「こうなる」とありますが、どうなったのですか。（10点）

（　　）

□(2) ――線②「おいこそいいつらの皮だ」には、「俺」のどんな気持ちがこめられていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。（10点）

ア 「清」に同情する気持ち。
イ 自分自身をあざける気持ち。
ウ 「おい」に同情する気持ち。
エ 自分をけんそんする気持ち。

（　　）

□(3) □に入る言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。（10点）

ア 感心　イ 安心　ウ 失望　エ 立腹

（　　）

□(4) ――線③「もうお別れになるかもしれません」とありますが、こう言った時の「清」の気持ちとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。（15点）

ア もうここから先は、一緒についていってあげられない。
イ 私は年だからもう生きて坊っちゃんには会えないかもしれない。
ウ もう私を引き取ってくれることも無理にちがいない。
エ 坊っちゃんは、私のことなどすぐ忘れてしまうだろう。

（　　）

□(5) ――線④「なんだか大変小さく見えた」には、「俺」のどんな気持ちが表れていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。（15点）

ア 「清」と離れて暮らすのはさびしいが、また会えるのだからがっかりするのはばからしい。
イ 「清」は親族ではないのだから、「俺」と一緒に暮らすことはあきらめてほしい。
ウ 「清」にはもう二度と会えないのだから、もっときちんとお別れをしておきたかった。
エ 「俺」と遠く離れて暮らすことになった「清」が、大変に力を落としていて気の毒だ。

（　　）

2 次の――線の読み仮名を平仮名で、片仮名を漢字で書きなさい。（4点×10）

□① 将棋をさす。（　　）
□② 零落した貴族。（　　）
□③ 鉛筆で書く。（　　）
□④ 魚がこげ臭い。（　　）
□⑤ 和菓子を食べる。（　　）
□⑥ 将棋のコマ。（　　）
□⑦ 進学をアキラめる。（　　）
□⑧ 海でオボれる。（　　）
□⑨ タンパクな考え方。（　　）
□⑩ 部員のボシュウ。（　　）

チャレンジしてみよう

思考・表現 「もうお別れになるかもしれません。ずいぶんごきげんよう。」と言う清に、あなたはどんな言葉をかけますか。「俺」になったつもりで、次の条件にしたがって書きなさい。

条件1 「清」という言葉を使って書くこと。
条件2 五十字以上六十字以内で書くこと。

50
60